

(38)

氏名(生年月日)	オオ 大	タニ 谷	トモ 智	コ 子
本籍				
学位の種類	博士(医学)			
学位授与の番号	乙第1285号			
学位授与の日付	平成4年7月17日			
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	登校拒否児の終夜睡眠脳波			
論文審査委員	(主査)教授 福山 幸夫 (副査)教授 田村 敦子, 溝口 秀昭			

## 論文内容の要旨

### 目的

登校拒否児においては、起床時間、就寝時間の遅れなどの睡眠、覚醒リズムの乱れが特徴的に認められ、睡眠構造異常の存在が強く疑われるが、系統的研究は殆どない。著者は登校拒否児の終夜睡眠脳波を記録し、睡眠構造を分析した。

### 対象と方法

1. 対象：平井らの登校拒否の定義に合致する児童44例(男児14例, 女児30例)で、年齢は10歳から16歳にわたる。同年代の男児5例を健常対照群とした。

2. 方法：終夜記録脳波を、1) 睡眠時間と睡眠変数、2) 各睡眠段階の睡眠時間、3) 各睡眠段階の比率、4) REM睡眠の潜時および回数の各パラメーターについて分析し、登校拒否群と健常群とで比較した。また、各症例をDSM-III多軸診断により分類し、睡眠構造との相関を検討した。

### 結果

1. 登校拒否児の睡眠構造：覚醒回数、覚醒時間の増加、入眠潜時の延長、全睡眠時間の減少、睡眠率の低下、REM睡眠出現時間の減少、REM潜時の延長、S4出現時間の減少が夫々高率に認められたが、いずれも分散が大であり、対照との間に有意差はなかった。

2. Axis-Iによる臨床症候群では、不安障害と適応障害が多く、両群ともにREM潜時の延長、REM回数の有意な減少を認めた。

3. Axis-IVによる心理的社会的ストレスの強さと、睡眠構造の間には有意な相関は認められなかった。

4. Axis-Vによる適応機能レベルとの関連では、適

応機能障害の増強に伴い入眠後覚醒時間の増加および徐波睡眠時間の減少が認められ、夫々統計的に有意であった。

### 考察

登校拒否群では内因性うつ病と同様の睡眠障害やS4出現時間の減少、REM睡眠障害がみられたが、分散が大きく健常群との間に有意差はなかった。このことは、登校拒否に様々な亜型が存在することを示唆する。またDSM-III分類のAxis-Iの臨床症候群別に睡眠障害を検討した結果、身体症状の強い身体表現性障害例で睡眠障害が軽く、不安障害・適応障害例は身体症状が軽い代わりに睡眠障害が強いと考えられた。ストレスの指標であるAxis-IVと睡眠障害の相関は見出せず、ストレスは登校拒否の重要な成因ではなく、症状発現のきっかけになるにすぎないと考えられた。重症度を意味すると考えられるAxis-Vと睡眠障害が相関することから、睡眠障害の程度を把握することは、登校拒否の重症度を推測する上で有用と考えられた。

### 結語

登校拒否児には内因性うつ病と類似した睡眠障害が見られ、内在性概日リズムの異常が成因の一つとして重要と思われる。

## 論文審査の要旨

近年における登校拒否児童の増加は、深刻な社会問題となっているが、登校拒否に陥る機序は複雑かつ多面的であることが認識されている。本研究は、登校拒否児の終夜睡眠脳波を記録し、睡眠構造を分析した結果、内因性うつ病と類似した睡眠障害が存在することを認め、内因性概日リズムの異常が登校拒否の成因の一つとして重要であろうことを示唆した、学術上価値ある研究である。

### 主論文公表誌

登校拒否児の終夜睡眠脳波

東京女子医科大学雑誌 第61巻 第8号  
619-629頁（平成3年8月25日発行）

### 副論文公表誌

- 1) 登校拒否児の終夜睡眠脳波. 小児科 27 (8) : 1067-1073 (1986) 大谷智子, 梅津亮二, 草川三治
- 2) 乳児気管支喘息の予後に関する検討. 日小児アレルギー会誌 5 (2) : 62-68 (1991) 大谷智子,

椎貝典子, 下田恵子, 島貫金男

- 3) 乳幼児マイコプラズマ肺炎の胸部レントゲン所見について. 日小児放線会誌 2 (2) : 52-53 (1986) 大谷智子, 小林真澄, 保科 清
- 4) 乳幼児におけるマイコプラズマ肺炎の11例. 小児臨 40 (5) : 1177-1182 (1987) 大谷智子, 小林真澄, 保科 清
- 5) 年齢別マイコプラズマ肺炎の胸部レントゲン所見について. 日小児放線会誌 3 (2) : 146-147 (1987) 大谷智子, 小林真澄, 保科 清